

刊夕 日二月一十

常磐毎日新聞

定価 一月五円 三月十五円 半年三十円 一年六十円
 発行所 常磐毎日新聞社 常磐毎日印刷株式会社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社
 電話 六三〇

方言の魅力と 妙味への随想

相馬 御風

越後全體として見て、この「イ」と「エ」の間違は全くめちや／＼である。それは単に口で発音する上ばかりでなく、書く上に於ても殆ど同様で、毎日の新聞を見てゐるだけでもそれがあまりよくわかる。尤も近來は越後でも上越と云はれてゐる地方には、著しく矯正されて來たが、中、下越に行くと、今なほそれはめちや／＼である。「色」が「エロ」であり「エロ」が「イロ」であるのなどは愛嬌のある部に屬するが「井戸」が「イド」で「江戸」が「イド」であつたり「獲物」が「イモノ」であり「物」が「イモノ」であつたりする程度になると通用困難になる。しかしその實例は全くニテエチ「一々」マエキヨにエトマあらざる有様である。

「ヒ」を「フ」と訛るところもある。「一」を「二」と訛る「云はせて見ても」フトツ、ヒタツ」とより云へない人もかなり多い。「風ひく」を「風フク」と訛り「風吹く」を「風ヒク」と訛る。「陸の皮ひんむいた」を「フザの皮フムムエ

タ」といふ。

「シ」と「ス」をまちがへてゐるところもある。例へば「日清談判破裂して品川乗り出す吾妻艦」が「ヌツスンダンバン、ハレチヌテ、スナガハノリダス、アジマカ」となるやうなものである。福島縣に近い地方では「自動車」は常に「ズンドシヤ」である。

「ユ」と「ヨ」を訛る場合も少ない。例へば「百合」を「ヨリ」と云ひ「雪」を「ヨキ」といふが如きである。私達

のあたりは女の子に「ヨリ子」といふのが澤山あるがこれはいづれもつけた當人達は「百合子」といふ優美な名前をつけたつもりであるのである。又「ヨキ」といふ名の女も多いが、これはやはり「雪」とつけたつもりなのである。

方言や或はその方言をあらゆる話しの調子には、それ／＼郷土的な親しみがあ

【朝】味噌汁——若芽 小付 うぐいす豆
 【晝】吉野煮 練
 【晚】オイスターフライ レモンキャンネロン オブピーフトマトン ース



秋。深し。 飯田 残雪

秋の晝太き綿蛇草に消ゆ昔有り今無き松や秋の丘 斷髪の子の綺麗さよ葡萄 食ふ

草の實を子ら争うて食べにけり 木の實手にこの子の眸輝 やける

行く秋や虫の音低き谷の路

素晴らしい乗心地の!!!
 三十五年式流線型新車が
 参りました
 是非御試乗御利用の程を御願申します
 三井タクシー
 電話 六八五番

磐城共済病院 (福島縣平町) (電話六四一四番)

内科	院長 石山謙一郎 (電話六四一四番)
小児科	部長 藤尚輔
婦人科	部長 黒澤廣
産科	部長 大町久藏
耳鼻咽喉科	部長 前澤正
皮膚泌尿器病科	部長 石山謙一郎 (電話二七二番)
花柳病科	部長 石山謙一郎
X線科	部長 石山謙一郎
外科	部長 石山謙一郎
内科	部長 石山謙一郎
外科	部長 石山謙一郎
内科	部長 石山謙一郎
外科	部長 石山謙一郎
内科	部長 石山謙一郎
外科	部長 石山謙一郎

◎病室完備 入院隨意

喜多流 謡曲と仕舞の
 お稽古をお奨め致します
 平町田町六九
 電話 一二七番

耳鼻咽喉科専門
 大和田醫院
 平町 南町 一六 (電話一七〇番)

難波 睦
 内科一般
 醫學博士
 看護婦募集
 平町大町新川端
 電話 五〇〇二

諸橋外科醫院
 (電。四六四)
 平新川町二七
 内臓外科 皮膚科。花柳病科
 レントゲン科
 醫學博士 諸橋鐵彌
 醫學士 與義弘

五十嵐 婦人科醫院
 開院
 平町新川町一二
 醫學博士 五十嵐雄二
 電話 三七〇番

造花 屋
 神佛葬具
 平新川町本橋
 電話 三六一

市制實現の

合併交渉を開始

昨日の委員会大綱決定

愈々實際の運動に着手

平町に於ける市制實施調査委員会は昨日午後二時から町會議事堂に總會を開き各委員は這般各地を視察した資料を持ち寄つて互ひに意見を開陳協議した結果

一、市は地方自治団体として法律上の地位を有するものとして町村と同様であるが市會議長制度、市參事會、市參事、又は縣會議員、所得調査委員の獨立選舉區となる等其他若干の相違がある

一、市の實力は人口三萬以上の大集團生活を目標とする

一、市の實力は人口三萬以上の大集團生活を必要とする

一、市の實力は人口三萬以上の大集團生活を必要とする

一、市の實力は人口三萬以上の大集團生活を必要とする

一、市の實力は人口三萬以上の大集團生活を必要とする

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

の共同の趨勢に應じて各種の公營事業を經營し住民の福祉増進に貢献すべき使命を有する事となる

十一月の月

晩秋の氣

一入濃く

農家は收穫を終へ紅葉山表を色彩る

暴虐の豪雨に見舞れた暗い先月の後を受けて十一月の月

入濃く、僅かに局部的に点在する紅葉もやがて間もなく枯れ果てるであらう、霜月ともなれば陸上の豪華な

秋刀魚の漁獲豫想

卅萬圓に達す

近年稀れな豊漁

秋の味覺王、秋刀魚漁は解禁以來豊漁を續けてゐるが本縣指導船警報九丈で九月廿一日より十月廿一日迄の一ヶ月間(四航海)に水揚げした數量は約三十八萬尾に

達し成績素晴らしいものであるがなほ縣下本年の總漁獲豫想高は魚船三十四隻で約百五十萬尾、金額二十五萬圓乃至卅萬圓で近年稀れな大豊漁である

達し成績素晴らしいものであるがなほ縣下本年の總漁獲豫想高は魚船三十四隻で約百五十萬尾、金額二十五萬圓乃至卅萬圓で近年稀れな大豊漁である

達し成績素晴らしいものであるがなほ縣下本年の總漁獲豫想高は魚船三十四隻で約百五十萬尾、金額二十五萬圓乃至卅萬圓で近年稀れな大豊漁である

達し成績素晴らしいものであるがなほ縣下本年の總漁獲豫想高は魚船三十四隻で約百五十萬尾、金額二十五萬圓乃至卅萬圓で近年稀れな大豊漁である

貨物愛護

平驛の宣傳

平驛は來る廿一日から廿七日まで一週間の全國鐵道貨物愛護週間に荷物事故増加の現状に鑑み年末繁忙期を前にして事故の根絶とサー

ビスの向上を計り左記のポスターを購待合並に車内に掲載宣傳する

分前一割で目下の處利子の返済すら満足にゆかぬものが多いと

國營獵區を

永戸村に許可

既報永戸村大字上下兩永井地内の國營獵區は昨日認め可となり平營林署内に事務所を置いて獵區を管理する

議員多田井氏二郎氏が補欠に任命される

濟更生課は本郡下經濟更生指定町村の爲め左記日割で係員が出張實地指導を行

玉川村の負債調べ

利子さへも満足に拂はぬ

玉川村で此程調査した村民の負債高は全村二百五十戸のうち百五十戸は借金を背負つて居りその總額廿一萬九千六百六十圓の巨額、借入先は銀行の八萬百五十圓

關庫では明三日前九時より終中グラウンドで同庫内軟式野球リーグ戦を行ふと

稅調補欠

多田井氏任命

平稅務署管内所得稅調查委員鈴木邦三郎氏が過般の磐越東線轉車で逝去したので補充員の高田者大工町々會

四倉並に小名兩町の體育大會となつて催されその他各地に絢爛繪巻は繰り擴げられる、亦明日明治節の休日

各學校では昨日の熱田神宮遷座祭に際し夫々國旗掲揚、國歌合唱、學校長の訓話あり遙拜式を行つた

御會葬御禮

十一月三日

杉山朝光

× ×

陳情團も眼を白黒

内田鐵相の忙しさ

平町始め海にも山にも

明朗さを振り撒きつゝ

大急ぎの一日

「明朗大臣」又は「野人鐵相」で鐵道大衆から大人氣の内田鐵相は、午前十時卅四分、

平驛着で、來平、政友會全盛時代に選舉應援の爲め前後二回來平した事があるので既に平町とは馴染みであるが、けふは今を時めく大臣としての平町訪問である。

爲め驛頭には青沼町長始め平町の有名人が多數歡迎に立並び、最後部の特別列車から降りた鐵相も悉く明朗大臣の特質を發揮して「御苦勞様でした」と破顔一笑、仙臺から同車した鈴木辰三郎代議士と肩を揃へて驛頭に先着の省用自動車に乗り込み先般の列車顛覆で

「特別列車」から降りた鐵相も悉く明朗大臣の特質を發揮して「御苦勞様でした」と破顔一笑、仙臺から同車した鈴木辰三郎代議士と肩を揃へて驛頭に先着の省用自動車に乗り込み先般の列車顛覆で

齊藤榮三郎、久保木正己三氏の靈を慰むる爲め菩提院に墓參、夫々遺族に挨拶して墓前に焼香、直ぐ自動車を飛ばして第三小學校に至りビヨコ／＼お辭儀する

子供等を見て「ヤー、好い兒だ、好い兒だ」と愛嬌を振り撒きながら休む暇もなく講壇に駆け登り起立

して待ち受けた鐵道従業員の爲めに「大家族主義で常に明朗な氣分を發揮し、大いに國家の爲めに働いて貰ひ度い」と

ながら湯本着、入山炭礦から警城炭礦を巡回「景氣が好いな」と獨り肯き再び平町に歸り住吉屋本店の歡迎會場に臨み手にする酒盃も慌しく午後三時廿分平驛發で歸京の途に着いたが

湯本町を、始め其他から現に爭奪戦を演じて居る平小鐵道經由路線の陳情團も此の忙しい視察の時間に陳情の暇がなく眼を白黒させて大臣のお伴をして廻つて居た

多年政黨 仕込みの得意な雄辯を揮つて懇篤に訓示を述べた大急ぎで自動車を駆り沼の内の辨天池に悠々浮む大鯉に興がり車中から豊間の燈臺を仰ぎ、江名や中の作漁港、小名濱商港を視て水産試験場で晝食を

獵の師匠を

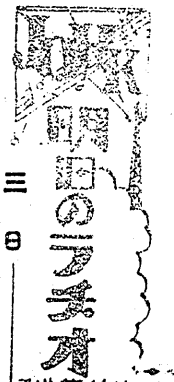
獲物と間違ひ

發砲重傷を負はす

後でピツクリ自殺を圖る

永戸村大字渡戸吉田正二(三)は近く狩獵免許が下附されるので同字の知人須藤義高(三)に指導されながら昨日同村二本川附近山林に出掛け別れ／＼に獲物を漁つて居るうち本物の雉子一羽が二人の中間に舞ひ降りたので互ひに獵銃の標準を定めて居る際前記指導者

格の須藤氏は雉子が地上から立たぬのに業を煮やし頭部をヒョイと蓋から出したので待構へた弟子格の吉田が得たりと村田銃の散弾をブツ發した爲め須藤の頭部に命中須藤は瀕死の重傷を負ひ血染に塗れて苦悶して居る爲め驚いた吉田は自分の獵銃で自殺せんと圖つた



今晩も北西の風 明日は北東の風 晴曇半す

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間 傳説物語「二つの金華山」 森川紫氣
後六、二五 講演「歐米を巡りて」岡田忠彦
後七、三〇 子供と家庭の夕各地の子守唄 旭川仙臺東京都廣島小倉長崎
後七、五五 少年講談「新渡戸博士の勘忍袋」三浦
處虫の息の須藤氏に止められて駐在所に自首した、被害者は平町諸橋病院に收容されたが生命危篤である

平町の就學兒童

明春四月に六百十二名

平町役場で調査した明十一年四月から市内各小學校に入學する就學兒童數は第一校が百九十七名、第二校が百九十名、第三校は男百二十六、女五十九、計二百二十五名で總數は男三百二十三名、女二百八十九名、計六百十二名となるが十年度の就學生男二百九十三名、女三百十二名、計六百九名に比較して三名の増加である

車上から

轉げ落つ

積荷中に重傷

平驛前丸通運送會社荷馬車輓飯野村大字北白土字上平伊藤唯一(三)は一日午後一時頃平窪村字杉ノ内酒釀業松本金治郎方倉庫で荷馬車に四斗入酒樽を積込中誤つて車上からコンクリートの上に落ち頭蓋骨を骨折し生命危篤である

山津波の

被害者救済

縣社會課小釘屬は去る廿八日來郡山間部の山海嘯現場に出張して被害状況を調査した結果 田人村南大平相馬喜七郎の遺族、妻と長男を失つ

明日の部

前七、〇一 狩獵鳥霞網捕獲實況
前九、三〇 奉祝唱歌女子放送合唱團
前一〇、〇〇 記念講演「明治節と明治天皇の御聖」徳富猪一郎
前一一、三〇 第四回日本體操祭
前一、一〇 講演「新に指定の明治天皇御聖蹟」萩野伸三郎
前一、四〇 仙臺市内女學校聯合音樂會
前二、五〇 箏曲 今井慶松他
後一、二〇 落語「子ほめに變更した

病氣悲觀

老婆の自殺

小川村大字上小川字上田二七農留吉妻白木トメ(五)は昨日午後五時半頃持病の神經痛が全治せぬのを悲愴し自宅寢室に帯を吊して縊死したと

磐城丸が表彰

指導船磐城丸は去る廿七日久之濱町藤田重吉氏所有第二福徳明神丸が激浪中機關の故障から遭難せんとしたのを救助したので久之濱漁業組合から表彰方を縣に上申した

平裁判たより

平町字三丁目一貨切自動車營業兼自動車運轉者遠藤美彌(三)が去る四月廿一日午前十一時廿分頃月見町十六番地附近で平町四軒町平機關庫勤務藤崎庄重氏二女由惠(四)を轢倒し右脚部打撲

平町人事

△内郷村當時茨城縣多賀郡日立町字宮田阿部利一氏(二四)鎌田町小林タマ(二二) 三倉五八 青木誠氏(二八) 赤井村字田中山崎清子(二六) 回 死 △長橋町 當時好間村字空山今宮ツメヨ(四八)



明治太平記

（作）寺島在史
（監）寺島在史

第二百六十五回

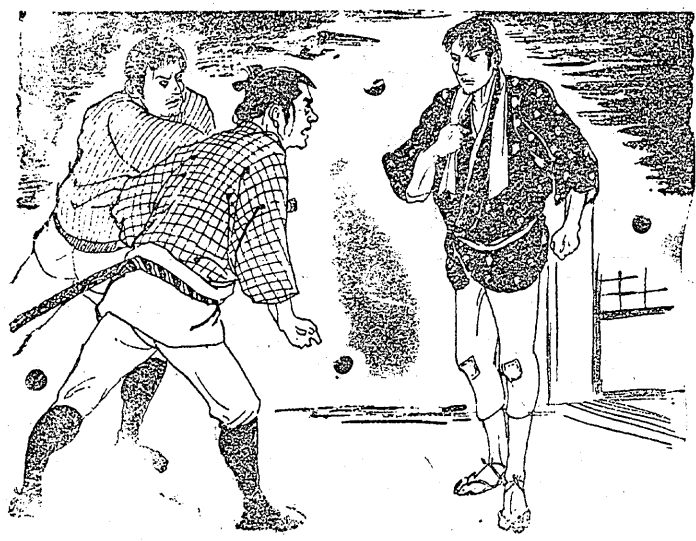
新島原跡 (五)

「あきうどか」
「あきうどか、いま時分こんなところに居るものか」
「では、妓夫か、たいこもちか」
「いや、新島原は、もうくわではないぞ」
「なるほど、では宿なしが宿を求めてをるのか」
「いや、おれたちはどろばうだ」

「なに！ 泥棒……はて臆面もなくどろばうを名乗るところをみると、おのれは天竺だな」
「おう、天竺浪人の安藏だ、がさういふおまへは？」
「おれは、助太刀屋だ」
「なに！ ではおぬしは本志賀だな」
「そうさ」
「うむ、よいところで出會ふた」
「なに!!」

「おぬしの在所を尋ねてをつたのだ」
「どうして？」
「いつぞや、人斬り良順のかたき、ウエルズをおのれはよくも取遁したな」
「あ、あのことか」
「それだけでは、大僧

「うむ、さうまでおもひ込んでをるなら、詮方ない。いかにも相手になつてやう。だが、こんなところで斬死しては、天づくおのれも恥たろう」
「さういふ、おぬしも旗本上りの格式にもかゝはるといふのだらう。出ろ」
「待て、いま戸外へ出てみる、巡察の一隊の網に引かゝるぞ」
「おぢけたな」
「なんの、おぢけくらゐならおぬしらの手をのがれて一刻もはやく巡察に捕へられに往くわ」
「だが、天づくおぬしらは、巡察の網に引かゝるぞ」
「おぢけたな」
「なんの、おぢけくらゐならおぬしらの手をのがれて一刻もはやく巡察に捕へられに往くわ」
「だが、天づくおぬしらは、巡察の網に引かゝるぞ」



「うむ、さうまでおもひ込んでをるなら、詮方ない。いかにも相手になつてやう。だが、こんなところで斬死しては、天づくおのれも恥たろう」
「さういふ、おぬしも旗本上りの格式にもかゝはるといふのだらう。出ろ」
「待て、いま戸外へ出てみる、巡察の一隊の網に引かゝるぞ」
「おぢけたな」
「なんの、おぢけくらゐならおぬしらの手をのがれて一刻もはやく巡察に捕へられに往くわ」
「だが、天づくおぬしらは、巡察の網に引かゝるぞ」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

「ところが……」
「なに!!」
「ウエルズは、もう烏森の濱の家に居らぬぞ」
「なに、ではどこだ」
「パークスの手前、大隈もウエルズをかばふわけにもいかず縁を切つたといふことだ」
「あきらめはせぬが、時期の到来を待つてをる」

産人科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 立番彌一
藥局

平町新川町十九
木村病院
病室完備 入院隨意
電話一六四番

かまぼこ製造
お惣菜用 さつま揚 吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

耳鼻咽喉科専門
平田町 (電話六九一番)
山内醫院
病室完備 自炊便有
醫學士 山内亨 吉

一齒科一般 保存科補綴科 繼續架
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
一口腔外科 一レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科 醫學士 中野惠次
日本齒科 醫學士 西川誠
平町田町(松月堂向と) 電話五〇九番

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切 料金は極め低廉で
町寧 妊産婦の御家庭 お留守 居番
御病人の付添 炊事や 雑用 年寄やお子さんの付添

平電氣鑄鋼所
履歷書持参—委細面談
電話二六番

派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二 (電話二二番)
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子